【令和６年度　松江清心養護学校　学校評価】

評価日：令和7年2月19日

学校重点目標

Ⅰ 的確な実態把握を基盤にして、児童生徒が学ぶ喜びを感じ、主体的に学ぶことができる授業の充実

① 個別最適な学びの充実と、他者から学びを得る協働的な学びの保障
② 児童生徒の主体性を引き出し、可能性を広げるICT機器等を活用した授業づくりの追求
③ 肢体不自由教育における専門性の中核となる自立活動の指導を支える教職員の専門性の向上

Ⅱ 児童生徒が地域の中で学び、豊かな生活を送るための取組の充実

① 地域との連携・協働した教育活動（理解啓発、地域貢献を含む）の充実
② ＨＰや校報、メディア等を利用した地域への理解啓発活動の充実
③ ２０３０全スポに向けた気運の向上

Ⅲ 児童生徒が安心安全に学ぶことができる教育環境の整備

① 状況に応じた感染症対策、安心安全な教育環境を保つ施設設備の管理
② 児童生徒一人一人の健康状態の詳細な把握・情報共有及び迅速的確な対応
③ 自然災害、原子力災害等を想定した危機対応能力の継続的な強化

A:（達成）　B:（おおむね達成）　C:（やや不十分）　D:（不十分）

	各学部・分掌目標	重点目標 ［学校重点目標との関連］	評価指標 評価者	評価項目	教職員の自己評価	今年度の自己反省（総括・課題） 各学部・分掌の重点目標は達成できたか	改善点 来年度に向け改善すべき点	具体的な改善策 具体的にどのような取り組みや工夫を行うか	評価者	評価委員評価
小学部	◎自分から挑戦しようとする児童の育成 〇身の回りのものや身近な人などに興味・関心をもつ力を育て、拡げる。 〇自分の気持ちや考えを自分なりの方法で伝える力を育てる。 〇身近な人と共に活動できる力を育てる。	・地域の人々（生馬地区住民・生馬小児童・高専生徒等）との活動を進める中で、 ①児童が地域の人々と自ら関わったり、表現したりしながら楽しく活動する。 ②地域の方々が、本校児童への理解を高めることができるような活動を行う。 【Ⅱ-①】	学部教員	・生馬小との交流活動では、よりお互いの理解が深まるよう、理解教育の方法や交流活動の内容を工夫して実施できたか。 ・松江高専との交流活動では、直接的に関わり合いながら製品制作が進むよう、本校や高専への訪問を行いながら活動することができたか。 ・校内地域コーディネーターと協力しながら、地域の方を校内に招いての活動を企画・実施することができたか。 ・児童の様子を、学級通信やHP等で伝え、情報を共有することができたか。	A	【総括】 ・学級によって頻度は異なるが、地域の人々と共に活動する学習の場を設定できた。生馬小学校や高専生との交流及び共同学習を通して、お互いのことを知ったり、関わり合ったりすることができた。 【良かった点】 ・島大生との交流やバスの乗り方教室の開催、ゲストを招いての演奏会等、新たな関わりや活動を実施することができた。 【課題】 ・地域CDとの連携 ・情報発信の頻度 ・交流活動内容の検討	・地域CDが学級付きで生徒指導部長であったため、年間を通して相談できる体制ではなかった。校内体制の改善が必要。 ・年度当初の年間計画を立てる時期に、具体的な活動内容を立案。 ・HP更新担当月を意識できるような手だてを行う。 ・交流活動の内容についての工夫。	・地域CDは学部付きとし、学校全体の学習活動をカバーできる体制をとる。また、分掌部長との兼務しない。 ・学級によって、感染症対策の観点や学習の重点目標の観点から、地域との学習活動を立てにくい学級もある。学級で独自の活動を計画しにくい場合でも、生馬小学校や松江高専、地域とのスポーツ交流などに参加できる機会はあるので、どの学級も必ず計画するのではなく、各学級の実態に応じて地域と連携をした学習活動を計画することを基本とする。 ・（地域CDの校内体制を改善したことを前提として）年度当初の学習計画検討の段階で、子どもたちとどんなことを一緒にしたいかという事を具体的に考え、地域CDに具体的な相談を行う。 ・HP更新の担当月を意識できるよう、毎月の学部会で担当学級等の確認を行う。 ・生馬小学校との交流（第1回・2回）では、よりペアの児童を意識できたり、協力したりできるような内容を考える。高専生との交流では、昨年度同様に児童の好きな活動を一緒にできるような時間を作る。	学校運営協議会（学校評価委員会）	A
中学部	◎自分のよさや可能性に気づき、たくましく生きようとする生徒の育成 〇基礎的な学力の定着を図り、日常生活に活かす力を育てる。 〇自分のやりたいことや目標に向かって挑戦できるたくましい心と身体を育てる。 〇自ら学びに向かい、さまざまな人と自分からかかわる力を育てる。	・生徒自らが考え、安心感をもって主体的に人やものとかかわったり、活用できたりする力を育む授業づくりと学習機会の設定を行う。 【Ⅰ-②③、Ⅱ-①、Ⅲ-①】	学部教員	・学習の下支えとなる自立活動の中心課題を明らかにし、個々に応じた指導、支援をすることができたか。 ・校内の児童生徒や地域との交流活動、公共施設を活用する等の学習場面を設定し、主体的に人やものとかかわる姿を引き出すことができたか。 ・日々の情報共有や環境の整備および緊急体制訓練等を行い、教員間で安全意識をもって指導にあたることができたか。	B	【総括】 ・学部全体で自立活動指導の充実を図る意識をもって指導・支援に取り組むことができた。また、様々な行事を計画・実施することができ、生徒の意欲的に活動する姿につながった。 【良かった点】 ・全ての中学部生徒について「自立活動の指導計画シート検討会」の希望を出して、検討会を実施し、自立活動の指導内容について検討できた。 ・宿泊を伴った修学旅行や芸術鑑賞会、生馬地域の方との交流などを計画、実施することができ、生徒が人やものと積極的、主体的にかかわる学習機会を設定することができた。 【課題】 ・緊急体制訓練の実施時期の検討	・年度の早い段階（1学期中）に緊急体制訓練が実施できるとより有効と思われる。	・早い段階から安全への意識を高めていけるよう、保健部と連携を図り来年度は1学期（5月）に緊急体制訓練の実施を計画する。		A
高等部	◎積極的に社会に関わり豊かに生きようとする生徒の育成 〇自立に必要な学力や心身の健康に気をつけて生活する力を育てる。 〇社会性を身に付け、積極的に人とかかわる力を育てる。 〇身につけた学力を現在及び卒後の生活に活用する力を育てる。	・生徒とともにめざす姿を明確にし「自分の力で自分から」学ぶ姿を引き出す授業づくり 【Ⅰ-①②、Ⅱ-①】	学部教員	・的確な実態把握を行い、卒業後の生活と関連させて「なりたい自分」や「めざす姿」を生徒とともに設定できたか。 ・卒業後の生活を見据え、自分で考えて行動できるための支援のあり方を検討し、共通理解して実践できたか。 ・地域資源やICT機器等を活用しながら、生徒の実態に合わせ、その力が発揮できる授業内容を設定できたか。 ・取組や支援の工夫について7月と12月の学部会で相談や意見交換をおこない、授業改善につなげることができたか。	B	【総括】 ・生徒との関係性を基盤に、担任中心に自立活動の視点を踏まえて生徒の実態を把握し、めざす姿や支援の方法を検討しながら授業づくりを行った。生徒の心身の状態を詳細に把握し、生徒が安心して自分から取り組む姿を引き出す授業づくりができた。 【良かった点】 ・生徒の実態や学習のねらいに応じて、ICT機器を使って自分の意見を伝えたり調べたりする学習、地域資源を活用して体験することで理解を深める学習等ができた。 ・学部会毎に具体的な支援について情報共有を行い、生徒の言動の背景や担任の思いを踏まえた支援の共通理解ができた。 【課題】 ・学部内で生徒理解の情報共有はできたが、授業の質を高めるための話し合いの場の設定や、学級をこえた合同授業等での支援方法の共通理解については工夫が必要だった。	〇授業改善につながる生徒の支援、学級経営等についての、学級をこえた話し合いや文書作成の有効活用と効率化	〇目標（テーマ）の視点をもった既存の会議やツール（学級経営案等）活用の工夫 ・授業改善の視点を明確にした評価改善ミーティング ・作成する資料を活用した情報共有・支援方法の共通理解		A
総務部	◎校内各部署、関係機関、保護者、地域と連携を図り、円滑に学校の運営を行う。 ◎安心安全な学校づくりのための取組を企画・調整・実施する。	・校内外の関係部署と連携を図りながら 中四肢P連研修大会の運営が円滑に進められるように企画・調整を行う。 【Ⅱ-①、Ⅱ-②】 ・教職員一人ひとりの危機対応能力の強化を意識した避難訓練（火災、地震）、原子力災害避難シュミレーション訓練を計画、実施する。 【Ⅲ-③】	全員	・中四肢P連研修大会の研修校として、校内各部署、保護者、関係機関と連携を図り、業務分担を明確にし、準備・運営を効率的に行うことができたか。 ・実行委員会を行い、進捗状況を確認したり、情報共有を図ったりしながら運営を行うことができたか。 ・昨年度の反省を基に、避難訓練（火災、地震）、原子力災害避難シュミレーション訓練を計画、実施し、事後の反省をまとめ、教職員に周知することで、危機対応能力の強化につながったか。	A	【総括】 ・中四肢P連研修大会の研修校として、実行委員会を中心に関係機関と連携を図り、準備・運営を行うことができた。また校内において、全体へ進捗状況を伝えたり関係部署と協力して研修会の準備・運営を行うことができた。避難訓練については、昨年度の反省を基に、今年度の計画をたて、教職員への研修（原子力）の時間ももちながら実施することができた。 【良かった点】 ・校内のICT支援員の大國さんにご協力いただき、リモート開催を円滑に行うことができた。 ・避難訓練については、教職員からの意見を分掌内で共通理解し、より危機対応能力の強化につなげるための訓練の計画を検討することができた。 【課題】 ・研修会については、学校が通常通りの中での開催ということもあり、部署によっては負担をかけたところがあった。 ・避難訓練については、それぞれ単独の訓練を行っているため、複合での避難体制を考えた方が良いのではという意見がある。	・避難訓練については、それぞれ単独の訓練だけでなく、バリエーション（火災と地震の併合）を増やしていくことも検討する。	・R7研修会担当校へ、本年度の様子や業務内容の引継ぎを随時行っていく。 ・R6年度の教職員アンケートを基に、分掌内で避難訓練の計画について検討する。		A
教務部	◎12年間の学びの積み重ねを大切にした教育課程の編成を推進する。	・教育課程を編成するための文書や手続き、校務支援システムを使った成績処理等について、整備をする。 【Ⅰ-①②③】	全員	・教育課程を編成するための文書や手続き等を周知できたか。 ・校務支援システムを使った文書作成のマニュアルを完成することができたか。 ・教務関係掲示板を整備すると共に、周知の仕方を工夫し、分かりやすく情報提供をすることができたか。	B	【総括】教育課程を編成するための文書や手続き、校務支援システムを使った成績処理等について、整備をすることができた。 【良かった点】教育課程を編成するための文書や手続き等の周知、校務支援システムを使った文書作成のマニュアルの完成、教務関係掲示板等の整備と情報提供を行うことができた。 【課題】B類型の教育課程編成シートの記入と教育課程の協議のポイントについて。	・教育課程の協議の視点を明確にする。	・B類型の教育課程編成シートの記入のポイントの下案を今年度中に作成し、来年度周知できるようにする。		B

生徒指導部	◎児童生徒一人一人の能力や適性が発揮され、お互いを認め合える心豊かな社会生活につながる取組を推進する。	・地域と連携・協働した教育活動や校内外への発信の充実。 【Ⅱ-①②③】	全員	・直接交流の機会を増やすことができたか。 ・児童生徒や地域の方が障がい者スポーツに触れる機会をつくれたか。 ・地域の方が「また交流したい」「またやってみたい」と思える機会となったか。 ・HPやちらし等を活用し、情報発信ができたか。	A	【総括】 ・学校に来てもらっての直接交流の機会や障がい者スポーツに触れる機会の設定はできた。 ・交流後の地域や他校へのアンケートの結果、ほぼ全員がまたやってみたい、次はこの活動もしてみたいという思いを持ってくれていた。（本校の生徒もほぼ全員またやってみたいや交流は大切という回答であった。） ・担当者を決めてチラシやHPでの情報発信ができた。校内にも掲示板で地域との取り組みを伝えた。 【良かった点】 ・学校に来てもらって交流できることで、参加しやすくなった。 ・横田高校との交流では音楽交流ができ、参加できる児童生徒の対象が広がった。 【課題】 ・担当者の負担軽減 ・地域との活動の内容と早目の周知 ・校内に向けての発信	①担当者の負担軽減 ②地域との活動の内容と早目の周知 ③校内に向けての発信	①分掌部長（生徒指導主事も含む）と校内地域コーディネーターの兼務は避ける。来年度学校として、地域との協働をどう捉えるかによって、コーディネーターの配置方法等は検討する。 ②学校と地域で行う活動で、毎年あるものについては年度初めや学期はじめに周知した。しかし、途中で外部から話が来るものもあり、それは、外部と打ち合わせをして決まった時点で全体周知している。今後も早めに伝える努力はするが、ご理解いただきたい。 ②地域と協働した学習については、原則学級の子どもたちの実態やねらいに合わせて担任の先生で立案・計画をしていただくものです。全校×地域は担当で打ち合わせをしたり、集約したりしますが、子どもたちそれぞれに合った企画は担任の先生方を中心に相談していただければと思います。その際に相談にのる役割を担うのが外部地域コーディネーターです。 （「いろいろな分野で交流ができると良い」、「スポーツ交流は参加が難しい」等の意見があったが「スポーツ交流をすること」が目的ではなく、あくまで、「スポーツを通して地域の人とかかわること」が目的で、今年度もいろいろな実態の子どもたちが参加していました。） ③校内には掲示板やチャットで、また保護者には学期1回のたよりで発信をしていた。どのような発信方法だと全体に周知されやすいか、全体で考えられると嬉しいです。	学校運営協議会（学校評価委員会）	A
進路支援部	◎児童生徒が自己の進路を主体的に選択できるよう進路支援を行う	・地域の事業所や関係機関と連携して児童生徒、保護者、教職員のニーズに沿った進路支援や情報提供を行う。 【Ⅱ-①②】	全員	・地域の事業所や関係機関と連携して教職員対象の研修会が実施できたか。 ・校内掲示を整備したり、HPを利用したりして、校内外へ進路に関する情報提供ができたか。	B	地域の事業所と連携して教職員を対象とした研修の機会を設けることができた。校内への情報提供については、情報提供の仕方に工夫が必要であった。 【良かった点】 ・担当のする子どもの実態に応じて参加ができる研修を設定することができた。 ・進路だよりや校内掲示、HP等を活用して情報提供を行った。 ・職場開拓等で本校の子どもの実態や進路に関する情報提供を行った。 【課題】 ・研修をより充実させるために事前に来ていただく事業所の情報を伝える機会を設けるとよかった。 ・あいワーク事業で開催していた福祉サービス説明会がなくなったため、保護者へ福祉サービスに関する情報提供の機会（集合型）を設定できるとよかった。	・研修に向けての事前の情報提供とニーズの把握 ・保護者への福祉サービスに関する情報提供の仕方。	・研修前に各学部で事前のミニ研修会等を設定する。 ・事前に研修についてのアンケートを取る。 ・保護者へ福祉サービスに関する情報提供の機会（集合型）を設定する。		B
研修推進部	◎校内研修や研修会を通し、教員の専門性、授業力向上を図る。	・校内研究を通して、的確な実態把握に基づく、個別最適な学びの推進を図る。 【Ⅰ－①】	全員	・的確な実態把握に基づくテーマ設定及び支援ができたか。 ・テーマに基づく授業実践を行う為に、外部講師や校内の教員との連携を図る為のコーディネートをすることができたか。	A	【総括】 ・研究の視点に沿った類型別グループでの公開授業、外部講師による研修会を行った。また、教員の専門性、授業力向上につなげる夏季ミニ研修会を行った。 【良かった点】 ・各学級のニーズに応じた研究の視点をもち、授業実践を行うことで、協議内容も焦点化され、話し合いを深めることができた。外部講師による研修会を1学期に行ったことで、2学期以降の授業に活かすことができた。また、必要に応じて、自立活動推進教員とも連携をとりながら進めることができて良かった。 【課題】 ・校内研究の細かなプロセスが分かりにくかった。また公開授業が2学期後半に重なり、グループとしての振り返りの時間の確保ができなかった。	・明確な研究テーマ設定と計画的・組織的に進める校内研究を立案する。	来年度の校内研究について、計画的に進めていけるように研究テーマ、研究計画、方法、研究体制について具体的に提示し、全体周知を図る。（年度末、年度はじめ） ・校内研究に関連した外部講師にうよる研修会を企画し、研究の取り組みや指導内容について共通理解を図り、日々の授業実践に活かせるようにする。		A
自立活動推進部	◎自立活動に関する教員の専門性・授業力向上のための取り組みに努める。	・自立活動の専門性の向上のための校内支援や校内研修会等を計画・実施する。【Ⅰ-③】	全員	・全児童生徒の授業の巡回訪問と事後相談会が実施できたか。 ・授業実践に生かせる校内研修（ミニ自立、自立活動研修会）が実施できたか。	A	【総括】全児童生徒の支援（巡回訪問、事後相談会、自活シート検討会等）が実施できた。計画通り校内研修会が実施できた。 【良かった点】 自活シートの相談会の希望者が増え多数実施できた。校内研修会の実施後アンケートでは「授業に生かせる内容であった」との評価が多かった。 【課題】今後も専門性向上の支援のために自立活動推進部員の専門性の向上が必要である。	・自立活動の専門性向上の支援のための自立活動推進部員の専門性の向上	・今後も自活担当者ミーティング（自活M）等を活用し、全児童生徒の事例の共有や事例検討等を行いながら、部員の専門性の向上に努める。		A
保健部	◎一人一人の児童生徒の心身の健康を支え、安心安全に学べる学校づくりを推進する。	・児童生徒の心身の健康と安全を守る保健体制や環境の整備、充実を図る。 【Ⅲ-①②】	全員	・児童生徒の心身の健康状態の変化に気づけるよう、各学級と情報を共有し、迅速にチームで対応することができたか。 ・教職員の気づき（ヒヤリハット、緊急体制訓練を含む取組）から、安心安全に学べる環境づくりをすることができたか。	A	【総括】 ・その時の状況に応じて各所と連携しながら対応できた。 ・教職員の気づきからの取組を工夫しながら継続できた。 【良かった点】 ・日々の児童生徒の状況や、担任から聞き取った情報等を保健室で伝え合い、複数で共有し対応できたこと。 ・緊急体制訓練の反省を生かし、緊急体制マニュアルを一部改訂したり、動画制作したりしてより使いやすくしたこと。 ・ヒヤリハットの取組で、教職員の意識を高めることができた。 【課題】 ・緊急体制訓練の実施方法。	・緊急体制訓練の実施時期と内容の検討。	・緊急体制の研修（年度初め）について、より具体的なイメージにつながる内容の検討。緊急体制訓練について、全員が参加しやすい日時や、内容の検討。		A
教育相談部	◎県東部の肢体不自由教育の中核的役割を果たし、地域の教育活動の充実を進める。	・地域の肢体不自由教育の充実を進める。 【Ⅱ-①②】	全員	・親子が楽しく参加できる親子教室が実施できたか。 ・相談者のニーズに応じた就学相談、教育相談、学校見学が実施できたか。 ・研修会や学校公開を通じて適切な情報提供ができたか。	B	【総括】 ・評価指標については、いずれも対象者の実態やニーズに応じた内容で実施することができた。 【良かった点】 ・参加者の実態把握に基づき、都度活動内容やかかわり方を検討して親子教室を実施することができた。 ・巡回相談等で知った参加者の状況や事前のアンケート等から、ニーズを導き出し、研修内容の準備をしたことで、全ての参加者からニーズに合った内容であったとの評価を得た。 ・YouTube配信による学校公開は、都合に合わせて視聴することができ学校の様子についてよく知ることができたと好評を得た。 ・学級に所属しないCDが3名となり、分担協力して相談業務を行うことができた。学校見学や体験では、所属の学部の担当者が企画や対応をすることができた。 【課題】 ・学校体験の授業参加の際に、具体的な支援方法を想定して準備しておく。	・親子教室では、子どもの様子に合わせながら、徐々に校内の知っている場所づくりや在校生との交流を取り入れていく。 ・学校体験の授業参加においては、教材教具の提案がもう少しできると良かった。 ・学校公開の申し込みの案内の発送から締め切りまでの期間が十分でない場合があった。また、アンケート結果の中に、「動画があるとなおよかった。」、「実際学校に行ってみたい。」という声があった。 ・相談日として設定してある日以外の日に相談の希望や会議が入ることがあり、補充等の調整をお願いすることがあった。	・親子教室に参加の子どもさんについて、必要な場合は、在籍の園の見学や支援者との面談をさせてもらい、活動内容や支援をより充実させる。 ・学校体験を受け入れる際には、学習上の課題やニーズに対応した体験ができるように事前に巡回相談や電話相談で十分に実態を把握しておく。そのうえで、教育相談部員が関係部署に相談しながら、教材教具の準備をしたり、授業者と打ち合わせを行ったりする。 ・学校公開の案内を出す日と申し込み締切日までの期間を4週間程度とる。支援学校への案内はメールで送る。 ・より詳しく学校の様子を知りたい方々のために、学校公開の中に、HPや学校見学についての案内を追加する。 ・今年度同様CDは担任を外してもらえるとありがたい。今後も相談業務に対応しやすい体制づくりに協力をお願いしたい。		A
情報管理部	◎児童生徒の学ぶ喜びやより豊かな生活につながる、ICTや支援機器を活用した授業づくりを推進する。	・ICTや支援機器の活用等に関わる研修・情報発信を通して、授業実践におけるICT活用の推進や充実を図る。 ［Ⅰ-②］	全員	・ICTや支援機器の活用等に関わる研修を計画的に実施することができたか。 ・ICT研修（実践交流、情報提供）が、授業実践におけるICT活用の推進や充実につながったか。 ・授業の様子や学校の取り組みについて、学校HPに掲載することができたか。	A	【総括】 ・指導者用iPadの配布に伴い、教育用PCの配布数減少があったが、ICT機器を授業実践で活用するため、情報発信を含めて環境整備に努めた。 ・学校HPについては、分掌内担当者、記事作成者を中心に作業を進め、特色ある教育活動を発信した。 【良かった点】 ・職員室の電源タップを増設し、自席での指導者用iPadの充電、保管する環境を整えたことで、手軽にiPadに触れることができるようにした。 ・授業実践におけるICT活用の推進や充実を図るため、指導者用iPadと標準パソコン間でのデータ共有の方法についての実技研修や、各学級の協力のもとICT機器を活用した実践を集約し、実際に使用した機器を展示した。 ・学校HPの公開までの手続きを簡素化し、スムーズに公開できるようにした。 【課題】 ・授業実践における、より効果的なICT活用を推進していく必要がある。 ・学校HPの記事作成、掲載の回数について、学部や学級によって様々であった。	・授業実践における、より効果的なICT活用を推進するための計画的な研修や情報発信 ・学校HP運用計画の周知と徹底	○計画的な校内研修の実施 ・第1回ICT研修を悉皆研修として設定する。 ・第2回以降は、各学級、参加者等のニーズを踏まえ、テーマを設けた研修や実技研修を中心に実施する。 ○指導者用iPadや教育用PCの具体的な操作、授業実践に関する情報発信 ・チャットや職員会等での情報発信を行う。 ○授業研究・研究協議での話題提供 ・児童生徒の実態や学習のねらい等に応じた効果的なICT活用について、情報管理部員をはじめ、専門性のある教員が話題提供を行う。 ○学校HP運用計画の見直しと周知 ・毎月の記事作成について、各学部で学級に割り振りをしていたが、各学級の記事作成を年間2回として、運用計画を立てる。		A
事務部	◎施設、設備等の破損、不具合がない状態を維持するとともに、破損、不具合が生じた場合は早急に対処する。 ○整備、改修等が必要な予算を要求する。	・児童生徒が、安全で安心して学ぶことができる施設、設備等の環境の整備を推進する。 【Ⅲ-①】	全員	・施設、設備等の破損、不具合を認知した日から3日以内に対応方針を決めたか。	A	【総括】 定期点検・日常点検を励行し、施設設備の破損、不具合に速やかに対応するよう努めた。 【良かった点】 発見された破損、不具合について速やかに対応方針の決定を行った。 【課題】 ・施設の老朽化による補修箇所の増加 ・使用者が異なる場合の使い勝手の違いへの対応	・経費が高額となるものについては、予算の確保に努める。 ・不具合への対応にあたり、使用者が複数ある箇所については、最適な方法や優先順位を検討する必要がある。	・経費が高額なものについては、主管課に状況説明等を行う等により、予算の確保に努める。 ・修繕依頼のルートの整理、共有（破損等単純な事例を除く）		A